

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 30 日現在

機関番号：15401

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011～2013

課題番号：23653296

研究課題名(和文)「NIE学」構築のための研究方法論の国際比較研究

研究課題名(英文)A International Comparative Study on the Research Methodology of NIE Studies

研究代表者

小原 友行(KOBARA, TOMOYUKI)

広島大学・教育学研究科(研究院)・教授

研究者番号：80127927

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000円、(間接経費) 570,000円

研究成果の概要(和文)：国内外のNIEに関する優れたカリキュラムや実践の発掘・収集・分析とそれらの国際比較を通して、「NIE学」独自の研究方法論を解明することを目的とした本研究の成果は、大きく次の3点である。

第1に、日本型NIE独自の理論、すなわちNIE独自の目標と、それを実現するためのカリキュラム編成、授業モデル、評価方法を考えて行くための基礎データが得られたことである。第2に、「NIE学」独自の新たな研究方法論を提起することができたことである。第3に、東日本大震災からの復興をテーマとした社会科NIE学習のカリキュラムの構想やモデルとなる単元開発を試みることができたことである。

研究成果の概要(英文)：The aim of this study is to identify, collect and analyze excellent curriculum and practice on the NIE (Newspaper in Education) in Japan and foreign countries, and to clarify the new research methodology of NIE studies through international comparison of them.

The result obtained in this study is the following three points. First, I have obtained the basic data for making the theory of Japanese-style NIE that is the goal, curriculum, teaching model and evaluation method. Second, I have discovered the new research methodology of NIE studies own. Third, I have developed develop the curriculum and unit of social studies as NIE learning on the contents of reconstruction from the Great East Japan Earthquake.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード：NIE学 NIEカリキュラム NIE学習材 震災復興教育

1. 研究開始当初の背景

わが国にNIEが導入されて約20年、この間、新聞に親しませるゲーム・クイズ、新聞の切り抜きやスクラップづくり、複数の新聞記事の比較、社説や投書欄を活用したディベートや討論、新聞記事から環境問題・平和問題などの今日的課題を考える活動、新聞を活用した研究発表、新聞記事に対して自分の考え・意見を述べるNIEスピーチ、新聞づくり、新聞社への投稿など、多様な学習活動が開発されてきた。それらは、国語科や社会科といった教科の中だけにとどまらず、道徳や特別活動、総合的な学習の時間、朝読書、学級会といった教科外活動においても組み込まれてきた。さらには、ファミリーフォーカスや公民館活動など、生涯学習の場にも広がってきている。そして21世紀に入り、そのようなNIE学習の質的発展を求めて学会設立のニーズが高まり、2005(平成17)年3月20日に日本NIE学会は設立された。しかし、現段階で明確に「NIE学」なるものが存在しているわけではない。むしろ、NIEの質的発展のためにも「NIE学」を構築していくことが求められている。

「NIE学」を構築していくためには、大きく次の3つの課題があると考えられる。

第1は、日本におけるNIEのこれまでの歩みの中で生み出されてきた優れたNIE実践の掘り起こしと、その共有財産化を図ることである。第2は、NIE先進国である諸外国のNIEカリキュラムとその背後にある理論を収集することである。そして第3は、第1と第2の活動を通して収集された資料の分析とそれらの国際比較を行い、NIE学独自の研究方法論を明らかにするとともに、わが国における日本型NIE学習の理論を開発して行くことである。

2. 研究の目的

本研究は、今回の教育課程改訂の柱の一つである市民性教育の土台となる思考力・判断

力・表現力の育成にとって有効であるとの考えから世界的に注目されている、NIE(教育に新聞を)実践を研究対象とした新しい学問である「NIE学」を構築するために、国内及び諸外国の優れたカリキュラムや実践を発掘・収集・分析し、それらの国際比較を通して、「NIE学」独自の研究方法論を解明するとともに、日本型NIE学習の課題の抽出とそれを克服するための方法を明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

上記の研究目的を実現するために、研究期間内に、具体的には、次の3つの調査および資料の分析を行った。

毎年開催されているNIE全国大会や日本NIE学会の研究大会において、日本国内の優れたNIE実践家からの聞き取り調査を行い、資料の収集・分析を行う。

NIE先進地域といわれている北米(米国)、ヨーロッパ(英国)、英語圏以外のヨーロッパ(フランス、フィンランド)を訪問し、関係者へのインタビューを行うとともに、カリキュラム等を収集し分析する。

収集した資料に基づいて、日本および諸外国との国際比較を行い、研究方法論を解明するとともに、日本型NIEの課題の抽出と解決のための方向性を明らかにする。

考察した方法論を手がかりとしながら、東日本大震災からの復興をテーマとした、日本型NIEの授業開発を行う。

4. 研究成果

3年間の本研究の成果は、大きく次の3点である。

第1の成果は、日本型NIE独自の理論、すなわち、これからの時代に求められる資質や能力の育成を目指したNIE独自の目標と、それを実現するためのカリキュラム編成、授業モデル、評価方法などを考えて行くためのデータを、今回の国内および外国での聞き

取り調査によって得られたことである。

NIEの目標としては、「問題発見力」「情報活用能力」「思考・判断・表現力」「情報読解力(リテラシー)」「シティズンシップ」などが考えられる。これらは、国によって重点が異なる。日本の場合は思考力や表現力の育成に新聞活用を求める傾向が見られる。一方諸外国では、社会的な問題や課題に対する批判的な読解力に重点が置かれている。また、これらの目標を実現するためには、小学校・中学校・高等学校のどの教科や領域の中にNIEを位置づけておくことが必要なのか、それとは異なるNIE独自の領域を設けることが必要なのか、その場合のカリキュラム・授業・評価はどのようなものであるべきなのか、これらについても国によって微妙な違いも見られる。また、その違いがなぜ生まれるのかについての考察も必要である。国際比較を通して、これらの問いを探求していくことによって、日本型NIE独自の理論を構築することができると考えられる。その意味では、本研究はそのための第一歩であり、これからのNIE実践・研究の質的向上に寄与するための基盤づくりになると考えることができよう。

第2の成果としては、日本NIE学会においても模索されて続けている「NIE学」独自の新たな研究方法論を提起することができたことである。これまでの日本におけるNIE研究は、各個人による専門の教科・領域内でのNIE実践の開発や報告、あるいは歴史的な遺産研究にとどまっていた。そこからさらに進展させて、理論化に向けたレッスンプランの分析的研究や、国際比較研究などの新たな研究方法論を、模索しながらも提案することができた。また同時に、今回採用した、国内・外国のNIE実践者や研究者、研究室の若い大学院生徒の協同(協働)的な話し合いや議論を通して求めている理論を構築していくという研究方法についても、成果の一

つと考えることもできよう。

いうまでもなく学会の大きな使命は、優れたNIEの理論と実践の構築・創造と、それを支えるNIE研究の充実・発展を図っていくことである。また、そのような質の高い研究を通して、これからの研究・実践を担う有為な人材を育成していくことが必要である。これまでは、他の教育学研究や教科教育学研究の方法論を借用しながら研究を進めてきたが、これからの実践と研究の発展を支える「NIE学」独自の研究方法論を開発していくことが必要である。そのことは、これからのNIE研究の質的向上に大きく寄与することになるとともに、「NIE学」構築の基盤づくりにつながっていくと考えられる。

そして第3の成果としては、本研究の過程が東日本大震災からの復旧・復興の過程とも重なっていたため、新聞においても取り上げられることが多く、それゆえ、新聞を活用した震災復興をテーマとした社会科NIE学習のカリキュラムの構想や単元開発を試みることができたことである。NIE研究としては、今後も震災復興をテーマとした研究を継続していくことが求められる。

以上のような3年間の研究の成果として、最終的には下記のような目次の研究成果報告書の作成を行った。

研究の概要

- 1 研究題目
- 2 研究経費
- 3 研究組織
- 4 研究の目的と方法
- 5 研究の特質と意義
- 6 研究の経過

第1年次の研究内容(2011年度)

- 1 アメリカ合衆国におけるNIEレッスンプランの紹介
A The New York Times up front の
レッスン・スタディの紹介 ~ Lylin ' Eyes October 24 2011 掲載

- 1941:PEARL HARBOR の場合～
- B アメリカ NIE における Lesson Plan の紹介～upfront ” World Affairs 2012” (The New York Times)～
- C North Carolina 州の NIE Lesson Plan の概要
- 2 主権者を育成する社会科NIE 単元開発の研究～中学校単元「東日本大震災後の社会を考えよう」の実践から～
- 3 主権者としての資質を育成する社会科授業デザイン～「東日本大震災」の教材化を求めて～
- 第2年次の研究内容(2012年度)
- 1 諸外国のレッスンプランの分析
- A アメリカ合衆国「New York Times」のレッスンプランの分析
- B The Fresno Bee の『The Civil War-Revisited-』の分析
- C イギリスのガーディアン教育センターの実践の分析
- D カナダ「CALGARY HERALD」における NIE レッスンプランの分析
- E オーストラリア the West Australian 社の「WA Series - Our State : Past, Present, and Future-」における NIE レッスンプランの分析
- F ニュージーランドにおける NIE 実践の分析
- 2 諸外国における N I E の国際比較～米国・英国・カナダ・オーストラリア・ニュージーランドのレッスンプラン分析を中心に～
- 3 社会科は「東日本大震災」をどう教えるか～「震災復興カリキュラム」の構築に向けて～
- 第3年次の研究内容(2013年度)
- 1 アメリカ合衆国における NIE 学習論の分析
- A 「Newspaper Association of America Foundation」作成の NIE カリキュラム

～「ハイタッチ」カリキュラムを事例に～

- B GANNETT 社の USA WEEKEND 誌が提供する “Weekly Teacher ’s Guides ”
- C Los Angeles Times 「Making Social Science Current」の事例に
- D The Free Lance-Star 「Election Scrap Project」の分析を通して
- 2 社会科は「東日本大震災」をどう教えるか(2)～中学校社会科総合単元「震災復興支援を考える」の開発～研究成果と今後の課題
- 1 3年間の研究成果
 - 2 今後の課題

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 2件)

小原友行・大坂 遊・瀬戸康輝・田口敏郎・中山 茜・西村祥太郎・好井基文, 「我が国の新聞社が提供する NIE プラン改善の方向性～諸外国の新聞社における NIE レッスンプランの分析を通して～」, 『日本 NIE 学会誌』第9号, 査読有, 2014.3, 21-30

小原友行・岩淵 満・藤本奈央子・松原直哉・渡邊 巧, 「主権者を育成する社会科 NIE 単元の開発研究～中学校社会科「東日本大震災後の社会を考えよう」の開発～」, 『日本 NIE 学会誌』第7号, 査読有, 2012.3, 53-62

[学会発表](計 5件)

小原友行, 「社会科は『東日本大震災』をどう教えるか(2)～中学校社会科総合単元『震災復興支援を考える』の開発～」, 全国社会科教育学会第62回全国研究大会, 2013.11.9, 山口大学

小原友行・大坂 遊・瀬戸康輝・田口敏郎・中山 茜・西村祥太郎・好井基文, 「諸外国における N I E の国際比較～米国・英国・カナダ・オーストラリア・

ニュージーランドのレスプラン分
析を中心に～」, 日本NIE学会第9回秋
田大会, 2012.11.25, 秋田大学

小原友行, 「社会科は『東日本大震災』を
どう教えるか～『震災復興カリキュラム』
の構築に向けて～」, 全国社会科教育学会
第61回全国研究大会, 2012.10.21, 岐阜
大学

小原友行・岩淵 満・藤本奈央子・松原
直哉・渡邊 巧, 「主権者を育成する社
会科NIE単元開発の研究～中学校単元
『東日本大震災後の社会を考えよう』の
実践から～」, 日本NIE学会第8回鳴門
大会, 2011.11.27, 鳴門教育大学

小原友行, 「主権者としての資質を育成す
る社会科授業デザイン～『東日本大震災』
の教材化を求めて～」, 全国社会科教育学
会第60回全国研究大会, 2011.10.21, 広
島大学

〔図書〕(計 1件)

小原友行, 『「NIE学」構築のための研究方
法論の国際比較研究』(研究成果報告書),
広島大学大学院教育学研究科, 2014.3, 122

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小原 友行 (KOBARA TOMOYUKI)
広島大学・大学院教育学研究科・教授
研究者番号: 80127927